

令和5年度第1回 京都市市民参加推進フォーラム 摘録

■開催日時：令和5年6月29日（木） 午前10時～12時

■開催場所：京都市役所本庁舎4階 正庁の間

■議題：

- (1) 「市民参加推進フォーラム」令和5年度の活動予定について
- (2) 令和5年度市民公募委員サロンについて

■報告事項：

- (1) 市民参加の裾野拡大の進捗状況について
- (2) 新たに設置された附属機関等に係る協議結果及び市民参加に関する新しい事業等

■公開・非公開の別：公開

■出席者：市民参加推進フォーラム委員 11名

（荒木委員、乾委員、篠原委員、白水委員、並木委員、原田委員、平田委員、松井委員、三宅委員、森川委員、森実委員）

■傍聴者：2名

■特記事項：

動画共有サイトYouTube（ユーチューブ）を利用し、後日、音声配信を実施する。
Zoomを用いたWeb会議と併用開催した。

【議事内容】

- 1 開会
- 2 委員紹介

<事務局>

- ・ 議事に先立ち、委員の交代についてご報告する。六原学区自治連合会事務局長の菅谷委員、市民公募委員の安委員及び岩崎委員の3名が退任され、新たに藤城学区自治連合会副会長の松井委員、市民公募委員の平田委員、三宅委員の3名をお迎えしている。
- ・ それでは、皆様に簡単に自己紹介をお願いしたい。

（以下、委員及び事務局自己紹介 略）

<森川座長>

- ・ 本日の議題及び報告の流れについて、事務局から説明をお願いします。

<事務局>

(議題の説明、資料確認、時間配分について説明)

3 議題

議題(1)「市民参加推進フォーラム」令和5年度の活動予定について

<森川座長>

- ・ それでは、早速議題に入る。「市民参加推進フォーラムの令和5年度の活動予定について」事務局から説明をお願いします。

<事務局>

(資料1「市民参加推進フォーラム」令和5年度の活動予定について 説明)

<森川座長>

- ・ ただ今の説明について、質問等はあるか。

<金田委員>

- ・ 高校の授業の様子を実際に見学するのは、おもしろい取組だと思う。フォーラム委員が全員で見学に伺っても学校側として問題ないのか。

<事務局>

- ・ 学校側と調整し、了承いただいている。

<森川座長>

- ・ 授業の見学が1時間程度で終了するのであれば、第3回のフォーラム会議の議題として予定されている授業の振り返りを残りの1時間でできないか。場所を確保することは可能であるか。

<事務局>

- ・ 学校で場所を確保していただく方向で調整中である。事務局としても、見学後、早いタイミングで振り返りができる方が良いと考えている。詳細については、調整後に改めてご案内する。
- ・ また、見学後の振り返りでいただいたご意見をまとめて、第3回の資料としてお配りするイメージである。

<篠原副座長>

- ・ ただ、総合的な探究の授業で連携するもう1校の最終発表会が12月にあるため、それとの兼ね合いもあると思う。

<事務局>

- ・ そちらの振り返りも含めて、第3回のフォーラム会議で議論していただく予定である。

<森川座長>

- ・ 市民参加の裾野拡大の進め方については、現在の案を仮のスケジュールとして進め、不具合が出てくる場合は、再度検討したい。
- ・ 令和5年度の進め方で気になるのは、指標検討の方である。内容が難解であるため、昨年度も議論が深まりづらい状況であった。特に今年度から委員になられた方は、第3回のフォーラム会議でいきなり議論についてくるのは難しいと予想される。できれば、事前に自主勉強会ができれば良いのではないかと。

<森実委員>

- ・ 昨年度から委員として議論に加わっていたが、自分自身も第3回のフォーラム会議の頃には内容を忘れていそうである。可能であれば、本格的な議論は第3回で行うとしても、事務局で指標に数字を当てはめてみたら、このような結果になったという資料を報告的に少しずつ出してもらえると良いと思う。

<荒木委員>

- ・ 指標検討の議論は、今年度からの委員の方にとっては難解で、ガイダンス的なものが必要であるのはおっしゃるとおりだと思う。
- ・ 昨年度の議論で決めた指標を活用し、その結果を踏まえて指標の見直しを行うタイミングがあると思う。それを念頭に置いて、インプット、実際の数字を当てはめての指標の活用、その結果による指標の見直しとプロセスを踏んでいくイメージを委員全員で共有しておきたい。

<乾副座長>

- ・ 先ほど高校連携授業に話が出ていたが、それは市民参加推進計画の「重視する視点2次世代につながる市民参加の裾野の拡大」、施策でいうと1, 7, 9, 11, 12に該当する。つまり、指標で評価する対象となるため、指標の捉え方を事前に検討しておけば、授業見学で実践することができる。また、場合によっては、高校生にアンケートを取ることにもできる。1つのアイデアとして提案しておく。

<白水委員>

- ・ 京都奏和高校との授業について、情報提供する。今年度の後半期から、一般社団法人マチノミカタの仕事として、ビジテックⅡの授業のプログラム設計に関わる予定である。フォーラムでの高校連携授業の指標設定等で必要があれば、協力可能である。

<事務局>

- ・ 京都奏和高校との連携授業では見学会は予定していないが、12月に最終発表会があり、それをフォーラム委員の皆様にも見学していただくことができる予定である。

<森川座長>

- ・ 市民参加の裾野拡大で取り組む内容が指標での評価で使えるのではないかというご意見であるため、事務局でも検討いただきたい。

議題（2）令和5年度市民公募委員サロンについて

<森川座長>

- ・ それでは、議題（2）「令和5年度市民公募委員サロンの実施について」、事務局から説明をお願いします。

<事務局>

（資料2「令和5年度市民公募委員サロンについて」、
資料3「R4市民公募委員サロンだより」説明）

<森川座長>

- ・ 京都市の数多くの附属機関等の中で、市民の声を反映させていこうというのが市民公募委員である。それぞれの附属機関等で市民公募委員が役割を果たすことができるように後押しする目的で市民公募委員サロンを企画、実施してきた。
- ・ 昨年度までの議論も踏まえて、昨年度と同様の形式で今年度も一度実施してみようというのが事務局からの提案であるが、ご意見等はあるか。

<並木委員>

- ・ 昨年度も同様の議論をしていたと思うが、それを反映させたのが今年度の実施形式なのか。
- ・ 資料にパネルディスカッション形式で実施する第1部のパネリストの例として、附属機関等の座長や市職員が挙げられているが、これは市民参加推進フォーラムの座長や市職員を指しているのか。

<事務局>

- ・ これまでから、附属機関等を所管する部署の職員にも参加を促しているため、市民参加推進フォーラムのみには限定していない。ただし、現実的には、これまでの参加はほとんどないのが現状である。

<並木委員>

- ・ 登壇者として参加してもらおうよう、あらかじめ依頼しておくほうが良いかもしれない。
- ・ 市民公募委員サロンの議論に入る中で、やはり発言しづらかったというようなご意見を市民公募委員から聞いたことがあったが、事務局機能を担当する職員やそれぞれの附属機関等の座長からのご意見は聞けていない。各附属機関等の市民公募委員と事務局、座長が議論できる場にできれば理想的だと思う。

<白水委員>

- ・ 昨年度の市民公募委員サロンに参加して、市民公募委員からのご意見をお聞きして、たしかにと思う内容も多かった。それらの意見を各附属機関等の事務局や座長等にフィードバックできる仕組みはあるのか。

<事務局>

- ・ 市民公募委員サロンの終了後、「市民公募委員サロンだより」を発行している。ただし、市民公募委員への送付を想定しているものであるため、事務局の目に触れることはあるが、事務局や座長に直接お伝えすることはできていない。

<篠原副座長>

- ・ 毎年、参加者の方は、参加して良かったと言ってくださっている。実施する側は、いつも同じ内容で良いのかと心配になるかもしれないが、初めて市民公募委員になってサロンに参加する方、特に学生さんについては、「どのような服を着ていけば良いか」ということさえ不安に思っているという声もあり、それが解消できる場になっているということは意味があると思う。
- ・ ただ、全体の市民公募委員の人数に対して実際の参加者が少ないことは、以前からもったいないと思っており、どのようにすれば参加してもらえるのか、各附属機関等の事務局の職員に来てもらえるのか、という部分が悩みでもある。市民参加推進フォーラムとして何かできることがあれば、事務局側で把握していることや他の委員の皆様のお知恵をいただきたい。
- ・ 私自身は、周りに市民公募委員をしている人がいないため、直接誘うことはできていない。

<松井委員>

- ・ これまでに何回くらい実施してきたのか。篠原副座長のご意見にもあるとおり、初めて市民公募委員になった方にとっては、今の市民公募委員サロンで共有されている内容も必要ではあると思う。

<事務局>

- ・ 年1～2回の実施で、平成19年度から実施しているため、20～30回実施してきた実績がある。

<森川座長>

- ・ 平成19年度からであれば、かなり長い期間実施してきたことになる。今年度の市民公募委員サロンを実施すると同時に、第4回のフォーラム会議で次年度以降の実施方法を改めて検討したいと思う。
- ・ 今年度の市民公募委員サロンのファシリテーションも篠原副座長にお願いしたい。

<篠原副座長>

- ・ 承知した。グラフィックレコーディングについては、昨年度に引き続き、白水委員にご協力いただきたい。

<白水委員>

- ・ 承知した。

4 報告事項

報告事項（1）市民参加の裾野拡大の進捗状況について

<事務局>

（資料4「市民参加の裾野拡大の進捗状況について」報告）

<森川座長>

- ・ 昨年度の議論から、かなり具体的に話が進んできているところであるが、ご質問等はあるか。

<荒木委員>

- ・ 確認であるが、令和6年度から授業をパッケージ化して全市立高校に広げていこうとしているのは、公共の授業との連携を指しているのか。
- ・ 授業の見学は最終発表の日のみになるのか。

<事務局>

- ・ おっしゃるとおり、パッケージ化は公共の授業との連携に関してである。
- ・ フォーラム委員の皆様は最終発表の日のみであるが、テーマを所管する部署は、最初のテーマを提示する日にも出講しており、計2回の出講予定である。

<篠原委員>

- ・ 西京高校の連携授業は何年生向けであるか。

<事務局>

- ・ 2年生かと思うが、実施学年については確認しておく。

<篠原委員>

- ・ 次回が見学会になるため、もし高校連携授業を評価の対象にするのであれば、指標をたてておくための勉強会等について検討する必要があるのではないか。

<事務局>

- ・ 今年度の第3回で指標の議論をする予定であり、その前に勉強会を実施する想定であったため、本日の議論で指標をたてるどころまでは決めきれない。ご意見を踏まえて、第2回の見学会の前に勉強会ができるのか検討したい。

<乾副座長>

- ・ 指標検討の資料（参考資料2）の施策7の部分で、小中学生と大学生と記載されており、高校生が抜けているため、高校との連携授業の取組をしているからには追加しておいていただきたい。
- ・ 市民参加推進計画の各施策に沿ったアンケートを実施し、高校生が授業を受ける前後の変化を測ることもできるので、検討できればと思う。

<並木委員>

- ・ 乾副座長のご意見にもあったとおり、今回の連携授業に直接的に関連する施策は、施策7と施策9であると思う。

<乾副座長>

- ・ 前提として、参考資料3「市民参加推進力指標の全体概要」の中の「重視する視点2次世代につながる市民参加の裾野の拡大」に紐づく取組として、高校との連携授業を実施しようとしており、最も関係するのは施策7であるが、全体としては、施策1, 7, 9, 11, 12が関係している。

- ・ 高校との連携授業がどれだけ上手くいっているかを何で測るか検討する際、これらの施策に沿った指標をたて、授業の前後でどのように変化するのか、高校生にアンケートやインタビューをすることで見えてくるのではないかという話である。高校との連携授業の取組をする中で、指標検討の議論も前に進むのではないかという趣旨で申し上げた。

<森川座長>

- ・ 指標検討の取っ掛かりとなるようなご説明をいただいた。

<並木委員>

- ・ 乾副座長のご説明のとおり、指標の内容について理解をしてから高校との連携授業を実施することで、どのように授業の成果を評価していくか考えながら見学できると思う。

<乾副座長>

- ・ 指標検討の議論が始まった経過として、取組をとりあえずやってみるのではなく、事前にそのインパクトを考えて指標をたててから実施することで、その成果を測ることができるため、新たに事業を始めるときには、取組とその指標をセットで提案することが重要という議論から始まったことをご理解いただくと良いと思う。

<森川座長>

- ・ 指標を検討するプロセスは、その事業の本来の目的や効果的に進める方法を検討するプロセスと重なるという意味であると思う。

<荒木委員>

- ・ 一点提案したい。指標検討の基本説明文があれば分かりやすいと思う。評価の対象、目的、どのような経緯で導入したのか記載されていれば、新しい委員の方も理解しやすいと思う。
- ・ 京都市の政策を評価するのか、市民の活動の盛り上がりを測るのが分かりにくいと感じていたため、簡潔に説明にできれば良いと思う。

<篠原委員>

- ・ 京都奏和高校では、授業前後の変化を測るためにアンケートを実施している。アンケート項目を覚えていないため、今回の指標に合うか分からないが、評価に使えるかもしれないので情報共有しておく。
- ・ 京都奏和高校の最終発表会が一般市民の方でも参加していただけるようになる場合には、フォーラム委員の皆様にも見学していただきたい。白水委員は2年生、私は3年生のビジュックの授業に関わっている。また、進捗を報告できればと思う。

<森川座長>

- ・ 本日、初めて参加された平田委員、三宅委員は、ご意見や感想などあるか。

<平田委員>

- ・ 以前は市民公募委員サロンの参加者の立場であった。本日、初めて市民参加推進フォーラムの会議に参加して西京高校との連携授業等の取組を知り、このような市民参加の裾野拡大の方法があることを知ることができたのが一番の収穫であった。次回の授業見学など、実際に足を動かしての活動も楽しみである。

<三宅委員>

- ・ 質問したい。総合的な探究の授業との連携については、オーダーメイド型で全市立高校に広げていくことは難しいと思う。次年度以降、連携予定の高校はあるのか。

<事務局>

- ・ 具体的には決まっていない。京都奏和高校との連携は、森川座長からのご紹介でつながった。結果的には、そこに篠原副座長も関わっておられたという状況である。
- ・ 来年度以降は、京都奏和高校との連携を1つの実績として各市立高校に周知し、ご希望があった高校への聞き取り調査を行った上で、連携を進めていくという流れになるかと考えている。

<三宅委員>

- ・ 公共の授業との連携は、来年度以降に全市立高校に広げていくことになっているようであるが、各高校とすでに話はしているのか。

<事務局>

- ・ これまで教育委員会と話を進めてきた。教育主事の助言もいただきながら進めてきており、今年度の連携授業を「市立高校合同研究授業会」に位置づけ、社会科教員にも見学していただくことになっているため、一律に広げていきやすいと考えている。

<乾副座長>

- ・ 補足する。公共の授業との連携を広げていくのは、現時点では市立高校9校が対象である。府立高校に広げていくためには、窓口機能を作るなど方法を考えていかなければならない。

<並木委員>

- ・ 公共の授業との連携について、授業テーマの設定が重要である。今回の授業の目的を達成することはもちろん、市民参加推進計画に掲げている理念に沿った、高校生の市民参加を促すアプローチができるような視点を持ってテーマ設定ができればより良いと思う。
- ・ 京都出身の若い起業家で、ツーリストシップを掲げて活動する方がおられるが、観光客に京都の文化を知ってもらうのに加えて、京都のバスや電車の乗り方等をクイズ形式で知ってもらう取組をされている。このように、ただ観光課題の解決の方法を考えるだけでなく、文化や考え方の違いを楽しみながら埋める方法を高校生であれば考えられると思うため、そのようなテーマ設定ができれば良いと思う。

<森実委員>

- ・ 西京高校の連携授業の設計は、学校の教員がしているのか。この取組自体は良いし、一つのモデルになると思うが、次年度以降、教育委員会を通じて全市立高校に広げていくのは戸惑いを感じる。授業を担当する教員からのフィードバックも大切にしながら進めていければ良いと思う。

<事務局>

- ・ おっしゃるとおりである。今後、教員とテーマを所管する部署の担当者、教育委員会、市民協働推進担当で協議の場を設けて市民協働推進に資するテーマ設定を検討する予定である。
- ・ 授業モデルについては、今年度の内容をそのまま他の市立高校にも当てはめようとしているわけではない。現場の教員や教育委員会との連携方法について知見を得ることが主な目的である。

<荒木委員>

- ・ たしかに押付けは良くないと思うが、現場の職員がリアルな地域課題を話してくれることで、それに高校生が触れられる仕組みは良いと思う。
- ・ 先ほど並木委員のご意見にも出ていたが、高校生が当事者意識を持って考えることのできるテーマ設定になるようにしてほしい。市の抱える課題を全面に出し過ぎたり、教育してやるという意識を持つのは良くないため、当事者意識を持って一緒に考えてもらうテーマにする必要がある。

<森川座長>

- ・ これらのご意見は昨年度も出ており、事務局もしっかりと協議しながら進めてきている印象である。これまでのとおり、今後も押付けにならないように進めていってほしい。

<乾副座長>

- ・ 京都奏和高校との連携の話題に戻るが、ビジテックの授業は市民参加推進計画の考え方にも非常に近い視点で進められていると思う。アンケートも取られているという事なので、すべての視点が指標に合うかは不明であるが、合うものも出てくると思われる。並木委員のご意見も踏まえて、こちらの連携授業も評価していくことができれば良いと思う。

<森川座長>

- ・ 本日の意見をもとに高校連携授業での指標を用いた評価ができるか検討をお願いします。

<事務局>

- ・ 一度検討させていただき、アンケートを作成するなど考えていく。また、事前に委員の皆様にも共有させていただく。

報告事項（２）新たに設置された附属機関等に係る協議結果及び市民参加に関する新しい事業等

<事務局>

- （資料５「新たに設置された附属機関等に係る協議結果（一覧）」、
資料６「市民参加に関する新しい事業や取組」報告）

<松井委員>

- ・ ３～４年前にまちづくりビジョンを作った。コロナで取組が止まっていたが、学区としてホームページを作って情報を載せていくほか、今後はデータベースとしても情報をアップしようと思っていたところである。しかし、今はそもそもホームページを見る人が減っている。そのため、投稿したことを知らせるために、LINEで通知するようにしている。「いちのいち」のサービスについては、数日前に登録したところである。使ってみないと分からないが、どのような効果があるか見ていきたいと思っている。
- ・ 京都市は、紙ベースのお知らせが多く、回覧板のチラシをデータ化しようと思うと、紙を写真で撮ってデータ化する必要があり手間である。オンラインプラットフォームを使うのであれば、紙ではなくデータで情報をいただけた方がありがたい。

<森川座長>

- ・ 予定していた議論は以上である。最後に、傍聴の方からもご感想をいただきたい。

<傍聴1>

- ・ 前回の傍聴の感想で、座長が見えないと書いたところ、すぐに反映していただいた。他の附属機関等でも改善点を感想に書いているため、同様に速やかな対応をしてもらえると嬉しい。

<傍聴2>

- ・ 初めて傍聴したが、活発に議論されており良かった。

<森川座長>

- ・ 本日の議論は以上となる。それでは、事務局にお返りする。

5 閉会

<事務局>

第2回については、先ほどお示ししたとおり、西京高校での連携授業見学を予定している。具体的な日程が決まり次第改めて周知させていただく。

また、市民公募委員サロンの日程調整票を席上配布した。現時点の予定を記入のうえご提出をお願いする。

以上をもって、市民参加推進フォーラム令和5年度第1回会議を終了する。本日はありがとうございました。

以上